

# 強者の戦略

4月なのに寒かったり、雨が多かったりと、すがすがしい気候ではないですが、みなさんお元気でしょうか？アイスランドの火山が噴火し、地下から湧き上がるマグマが氷河の水に触れたことで水蒸気爆発を起こし、大量の火山灰を吹き上げながら、偏西風の影響で東に流れて、ヨーロッパの空港にダメージを与えていますね。「地形」と「気候」の知識を学ぶことでニュースをより興味深く見ることができるようになります。ちなみに、この火山の影響でブライダル業界が青ざめているそうです。結婚式で使用されるバラなどの花はヨーロッパからよく輸入されているからだそうです。「風が吹けば桶屋が儲かる」的な話ですね。まあ、そんな前置きはさておき、今日も解説に入っていきますよ！

## 【解答】

問1 1970年前後は、過密による住環境の悪化や都心の地価の高さなどを原因として、子供を持つ核家族が郊外へ流出したので、社会増加率の高まりとともに自然増加率も高かった。一方、1980年代後半は、子供を持たない若い世代が都心から郊外へ移住し、社会増加率は高くなったが、晩婚化などの影響で出産数は伸び悩み、自然増加率は高くはなっていない。(156字)

問2 バブル景気が崩壊し、不景気になったことで都心の地価が下がり、マンション供給が増加したことで、一旦郊外へ移り住んでいた人たちが都心へ流入し、都心回帰現象がおきたため。(82字)

問3

(良い影響)

税収が上がり、行政サービスが向上する。

中心商店街の衰退をくいとめることができる。

(悪い影響)

地価や物価が高騰し、低所得者層が住みにくくなる。

東京と他地域との格差が拡大する。

問4 郊外では人口減少と高齢化が同時に進行して

いる。東京郊外のベッドタウンでは高度経済成長期に子供を持っている世代が流入したが、現在ではその子供は成長して家を出ており、社会減少となっている。また、住み着いてから30年ほど経っており、経年による高齢化が進み、死亡率が上がって自然減少につながっている。このことによって起こる問題点は、老人ホームや介護施設などの社会資本の整備が追いついていないことである。生産年齢人口が少ないために税収が少なく、こういった施設の整備が難しくなっている。(235字)

## 【解説】

問1 「人口増加」を扱う問題に出会ったときには、「**自然増加+社会増加=人口増加**」という式を明確に頭に思い浮かべて解いたほうが良いでしょう。答案に説得力が出てきますよ。

この問題のポイントは、1970年前後が自然増加と社会増加がともに高い点、1980年代後半は社会増加は突出しているが自然増加に伸びは見られない点です。

1970年前後は**第二次ベビーブーム**でもありますね。東京の都心では子供が生まれたり、人口が流入してきたりして過密現象が著しくなり、住環境を良くしようと、郊外にできた**ニュータウン**に移り住んでいきました。まだまだ出産適齢期なので、郊外での自然増加率は高くなります。

場所は違いますが、わが南家も私が幼稚園に入る前あたりに、大阪の泉北ニュータウンに移住します。当時の倍率は30倍だったそうで、奇跡的な確率で入居することになったそうです。この泉北の桃山台の団地には確かに今にして思えばたくさんの子供がいました。12階建てでしたが、あらゆる階の子供たちと年齢を超えて遊びまくっていましたね。団地屋上から眺めたP.Lの花火は今でも忘れません。

一方、1980年代後半には**バブル景気**で地価が高騰し、地価の安さを求めて都心から郊外へ人

# 強者の戦略

口移動が起きました。このときに移住した人は主に単身世代で、会社に勤める人たちでしたが、近年の晩婚化の影響を受けて、出産が増えて自然増加につながることはありませんでした。

問2 1990年代後半には、バブル崩壊に伴う地価の大幅な下落、都心部における種種の規制緩和策やそれに伴う再開発の進展などによって高層マンションが林立するようになり、都心部の人口が急回復する「都心回帰」と言われる現象が各地で起きています。その反面、今度は郊外地域が衰退の危機に直面するようになり、コンパクトシティ(都心集約型のまちづくり)概念の台頭に象徴されるように、市街地の拡大を念頭に置いてきた地域計画も方向性の転換を迫られるようになりました。

問3 《良い影響》都心回帰現象による良い影響を考える場合、ドーナツ化現象が起き、都心の人口が減少して起こるインナーシティ問題を解決できるのではないか、という感覚が必要でしょう。下にインナーシティ問題の概要を示します。

## インナーシティ問題

- ①低所得者・高齢者の割合が相対的に増加
- ②失業者の増加→スラムの形成、犯罪の増加
- ③商店街の衰退→地域コミュニティの崩壊
- ④都市財政の悪化→税収の減少、福祉公共事業費の増加
- ⑤住環境の悪化→住宅の老朽化

上記から考えて、人口が流入すれば、

- ①富裕層の流入→都市財政の健全化→行政サービスの向上
  - ②中心商店街の復活→地域コミュニティの再生→隣近所に子供を預けられる→自然増加率の増加
- といった観点から解答を作成することができます。何事も基礎に立ち返ることが大切です。

《悪い影響》悪い影響は、高度経済成長期のような、都心に人口が集まったときのことを思い出せばよいでしょう。東京と他地域との格差は拡大するはずで、かつては「東京一極集中」という言葉があったはずですからね。また、近年ではジェントリフィケーションを思い浮かべられるようにしましょう。この現象は、再開発で地価が上がった結果、もとの居住者は住むことができなくなり、高所得で高学歴層が居住し、文化レベルなどが上がることを指します。ですので、低所得者層にとっては厳しい現実が待っているわけです。

問4 ドーナツ化現象が声高に叫ばれていた時代には想像もできなかったですが、現在は郊外でも人口減少が進んでいる地域があります。将来の日本はほんとに人がいなくなってきた、海外から労働者が大量にやってくるのではないかと末恐ろしくもなります。

郊外で人口が減少している理由は二つです。社会減少と自然減少です。ニュータウンに居住したばかりのときには小さな子供だったのが、いまやれっきとした成人ですからね。小さな団地の一室を飛び出て一人暮らし、さらには家族を形成するのは当然でしょう。どんどんニュータウンからは若手が流出していきます。そうして残された両親は年を取っていくわけですから、死亡率も上がってきます。そういったことを書いてもらえば良いでしょう。

そこから発生する問題は、高齢者の生活の利便性が下がることを述べるべきですね。若手がいなくなれば、自分の生活している自治体へ納税する存在が減り、税収は減少していきます。しかしながら、老人ホーム・介護施設・病院などを必要とする高齢者が増えていくわけですから、地方自治体は財政難となって、十分な社会資本を整備できなくなります。こういった現象に歯止めをかけるために市町村の合併も行われ

# 強者の戦略

ていきました。

今回は日本の都市の内容を扱いました。次回は何にするかは決まっていますが、また近いうちにお会いしましょう。じゃあ、今年1年も地理の勉強がんばってくださいね！！